

有栖山公園通信

其乃拾四

平成十七年十二月三十日（コミックマーケット69）
有栖山公園 (http://www.aliceyama.jp/
有栖山 葡萄 (budou@aliceyama.jp)

はじめまして&おひさしぶり。本日は御立寄りありがとうございます。
「ありすやま ぶどう」と申します、しがないSS書き同人屋でございます。

まず。

「おとしてごめんなさい！！！！」

と大きく書きちゃいます。はい、落としました。続き物なのに落としました。
もう駄目ですねほんと。夏こそはちゃんとだします。真面目に書きます。
早い段階から。

言い訳をさせていただくなら。昼間普通に仕事して、夜は子会社の新店舗のホールオペレーション指導というありえない状況。はっきり言ってぼろぼろでした。
落ち着いていなくても良くなったからといって、体力回復するまでしばらくかかりました。もういや、ほんとに。で、思ったのは..... 国人バイトなんて使うなっ！
おまえらなんか猫のウンry って感じですか。いやマジで。

さて、今後の活動予定ですが.....

2006年5月5日 都産望 葉っぱオンリー

が、濃厚です。ささら本出しそうな勢いです。ぶっちゃけごめんなさい。
しかも、はじめから絵師つきです。挿絵まで書いてくれちゃいそうな感じです。
ということで、ageサークルとしての活動は、今回をもちまして.....
おわらないですよ？ まだまだ呪い足りないですから~~

ということで。

今後ともなにとぞ宜しくお願いいたします~~~~！

ちなみに。現在時刻 12/30 7:00 だったりしますよorz

貴明は、今聞いた言葉を理解できなかった。
理解できないのではない。その耳が、脳が、そして心が。到底受け入れられるものではなかったからだ。

「何ほうけてんだよ、貴明」

呆気にとられ、返す言葉すら浮かばず立ち尽くしか出来ない貴明に、雄二は馬鹿にして鼻を鳴らし、追い討ちをかけた。

「はんっ。信じられねえっつか。それとも都合の悪いことは聞こえねえのか。幼馴染のよしみで、もう一度いつてやるよ」

そこでいったん区切ると、貴明の顔を見た。

「よく聞けよ。俺は、昨日、ささらと、寝た。幾ら手もつなげねえネンネのお前でも、この意味くらいはわかんだろ」

雄二は素晴らしい終わると、蔑み混じりの視線で貴明のことを睨んだ。

「な、なん……なんでだっ」

貴明はゲームオーバーの黒ヒゲのように、激しい勢いで椅子を跳ね立ち上がった。そして、雄二の胸倉につかみかかる。

貴明はその勢いのまま、殴りかかろうとした。

が、雄二はそれを感じ、貴明の鳩尾に右拳を突き立てた。
「ぐっ」

手を離し、腹を抱えるようにくの字に折れ曲がる貴明に、雄二は容赦なく、彼の下がつてきた頭に蹴りを喰らわせた。貴明は衝撃で、周囲の机をなぎ倒しながら床に倒れた。

「ちっ、なさけねえな。そんなんだから、惚れた女の一人も守れねえんだよ。何が大切にしたいだよ。てめえの弱さにかっこつけて、大事なもんから逃げてただけだろうよ」

雄二ははき捨てるように一気に言う、あとは振り返りもせずそのまま教室を出て行った。

「河野君、大丈夫っ?」

倒れた机の下にぼろきれのように押しつぶされている貴明を、小牧は机をどけ助け起こそうとしていた。しかし、非力な彼女一人ではそう簡単にできるものではなかった。

「誰か、手伝ってよ。おねがいっ」

しかし、貴明と雄二のやり取りで感じる事が有った他のクラスメイトは、誰一人として手を貸すものはいなかった。